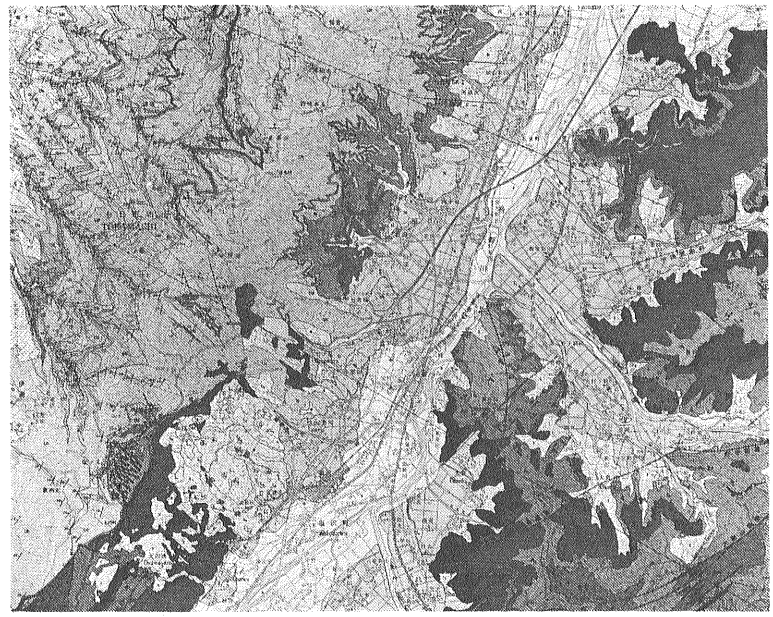

十日町図幅地域は新潟県の中央部の東寄りに位置している．　地質学的には先新第三紀の地帯区分上の上越帯-足尾帯に属し　また新第三紀の区分では　わが国の油田地帯として重要な新潟堆積盆地の東縁部に当たっており　地質的に重要な地域である．　南隣りの越後湯沢図幅は既に昭和56年に　新潟大学の茅原一也教授らによってまとめられ　地質調査所から発行されており　今回引き継いで十日町図幅が発刊されたことは　新潟地域の地質を解明してゆく上でもたいへん意義深いことである．

この地域の東半分を占める越後山脈地域には　古生界の水無川変成岩三畳系の上権現堂山層群・奥利根層群と　これらを貫く中ノ岳斑れい岩類・白亜紀花崗岩類が分布し　更にこれらを基盤として下部中新統の城内層群が広く分布する．　この地域は急峻な山岳地域で　調査は困難を極めたと思われるが　地質図では各地質単位の分布がたいへん詳しく示されており　著者らの労苦がしのばれる．　特にこれまで一括されてきた城内層群は２つの層と幾つかの部層に細分され　その詳細な層序と分布が明らかにされている．

この地域西部の魚沼丘陵の東縁部には中新統及び鮮新統が一つの複背斜帯をなして分布する．　これらは下位より上野層・大沢層・葎沢層・一村尾層・岩之沢層及び和南津層に分けられ　その岩相・分布などが簡潔にまとめられている．

魚沼丘陵の西麓部には鮮新―更新統の魚沼層が分布する．魚沼層は５つの層相に区分され　北方に細粒化する本層の層相変化が適切に表現されている．　５つの層相のうち海成シルト砂相は　大阪層群中の海成粘土と同様に鍵層として追跡できる可能性が示されている．　また計15枚の火山灰鍵層も同時に図示され　層相の側方への変化が読みとりやすくなっている．これらの鍵層については報告書中に詳しい記載と柱状図が記され　更に田川ルートでのルートマップが付されているので　今後の研究に大いに役立つであろう．

十日町盆地や六日町盆地の西縁に分布する河岸段丘堆積物やその相当層については　これまでの研究成果を基に詳述されている．　また塩沢町西方にある大規模な地すべり地を作る堆積物も　一つの単元として取り挙げその分布を示しているのも興味深い．

六日町盆地の西縁は新発田-小出線の延長に相当する六日町盆地北西縁構造線によって画されており　報告書では　α トラック法及びボーリング資料によってその位置が推定され　この断層が単純な断層線ではなく　並走する断層群によって構成されている可能性が示唆されている．　しかし地表では沖積層や扇状地堆積物に厚く覆われていて位置が明確でないので　地質断面図のみに図示されている．


５万分の１地質図幅の新刊

十　日　町

TŌKAMACHI

５万分の１地質図幅　地域地質研究報告

著　　者　柳沢幸夫・茅原一也・鈴木尉元・植村武
　　小玉喜三郎・加藤碩一
発　　行　工業技術院　地質調査所
取 扱 先　東京地学協会（03)261-0809　262-1401
　　そのほか全国主要書店
販売価格　3,780円



地質ニュース　第375号　11月号
定価 ¥600　〒実費

昭和60年11月１日　発行
編集　工業技術院地質調査所
発行人　林　久　雄
発行所　株式会社 実業公報社
東京都千代田区九段南４の２の12
〒 102
Tel.　(03)265-0951(代表)
振替口座　東京1-32466
総発売元　株式会社 実業公報社
出版事業部


©1985 Geological Survey of Japan